

「過去のコメントへの対応状況」のうち、  
地下水流入対策に関するコメント回答について

2023年2月20日

---

**TEPCO**

東京電力ホールディングス株式会社

「過去のコメントへの対応状況」のうち、地下水流入対策に関するコメント回答について（2023年2月時点）

コメント	状況	資料参考ページ※
建屋の水位を低下させたときに地下水の建屋流入量の変化を確認し、貫通部の位置など流入量抑制のためのデータを蓄積すること。（第70回、第79回） 第74, 84, 92 回会合にて回答（継続）	建屋流入量は2号機及び3号機が多かったが、フェーシング等の対策を継続していく事で、2号機（10m <sup>3</sup> /日程度）3号機（20m <sup>3</sup> /日程度）抑制されている状況。建屋深部の貫通部データなど資料に掲載。引き続きデータ蓄積を進める。	P10～p12、p18 建屋流入量 P17、p67～p70 貫通部
凍土壁に代わる構造壁の設置や導入等、遮水壁の取扱を含め建屋の根本的な止水対策について、いつ、どのように作成するのか全体の工程を示すこと。（第78, 90, 99回）	2028年度を目安に局所的な建屋止水と並行して建屋外壁部の全面的な止水工法に関して課題や必要な調査内容の検討を開始する。 まずは3号機原子炉建屋周辺を対象に今後のスケジュールを具体化していく。	P32～34 中長期的な汚染水対策 について
建屋貫通部・建屋間ギャップなどの止水措置について、スケジュールを含め全体の計画を示すこと。また、2号機タービン建屋や廃棄物処理建屋などの止水措置も並行して検討を進めること。（第99回）	2023年度は5, 6号機で試験を行い、2025年度末までに3号機、その他号機はそれ以降の展開を予定する。 2号機ブローアウトパネルは閉止済み。その他開口部も2023年度中対策予定	P19～p26 P62～p66 P71～p81 局所的な建屋止水 P52～p53 建屋開口部
3号機の排気筒下のレッドゾーン周辺の雨水対策（3号機屋根の雨水排水対策）として、瓦礫の撤去・フェーシングの実施等について早期に検討を進めること。（第99回）	サブドレンNO40 で検出されたPCB含有油の拡散対策結果を評価の上、周辺工事（排気筒撤去等）と調整の上、2028年度までを目標にフェーシングを検討する	P8 油拡散対策 P29 フェーシング
遮水壁のブライン配管等の設備について補強等も含めて設計として改良点がないか検討すること。（第99回）	全ジョイント（458箇所）の遊間計測中。直ちに漏えいリスクがある個所はなかったが遊間が大きい個所は認められた。年度内に再度全箇所計測し、改良点を検討予定	P14～p15、p60～p61 遊間計測

※資料6-1-2 「汚染水対策の現況と今後について」を参照